

かな書道の第一人者 書家・安東 聖空

文・瀬戸本淳(建築家)



瀬戸本 淳(せともと じゅん)

株式会社瀬戸本淳建築研究室 代表取締役
1947年、神戸生まれ。一般社団法人・APECアーキテクト、神戸大学工学部建築学科卒業後、1977年に瀬戸本淳建築研究室を開設。以来、住まいを中心に、世良美術館、月光園陶器館など、様々な建築を手がけている。神戸市建築文化賞、兵庫県さわやか街づくり賞、神戸市文化活動功労賞、兵庫県まちづくり功労表彰、姫路市都市景観賞、西宮市都市景観賞、国土交通大臣表彰などを受賞。

神戸に人々を幸福にするためと本気で働いている書家の友人がいる。その作品は静かで深く、優しくて英知に満ちあふれ、書の現れは幼き子からお年寄りまで年齢や境遇を超えたさまざまな人々を惹きつける。

神戸はすぐれた書家の多い街でもある。その大きな原点は、現代かな書道のパイオニア、安東聖空だ。明治26年1月9日に兵庫県赤穂郡船坂村（現在の上郡町）で生

謹。姫路師範学校を卒業後小学校の先生となつたが同僚の勧めで大正6年(1917)、齢26にして書道へ。晚学であつたが、近藤雪竹のもとで漢字を学びつつ熱心にかな文字を研究する。やがて神戸市臨時教員養成所書道教師を経て大正11年(1922)、第一神戸高等女学校(県二)の習字科担当教諭に。安東が指導した県二生の字はひときわ美しく、「県二流」と高く評された。

大正14年（1925）には教員養成所時代の教え子のくわだ桑田准一郎と「正筆会」を結成し会長に。この会には県やその流れを汲む神戸高校関係者が多い。昭和4年（1929）にはかな書道研究誌『かなどうた』を発刊する。

昭和63(1988)年、安東
かなの研究に生涯を捧げる覚
悟を抱いたそうだ。

昭和16年（1941）、安東は県¹を辞し、書道一本の生活に身を投じるも、その直後に18歳の一人娘を失う。悲嘆に暮れつゝも研究の歩みは止まることなく、その努力は戦後見事に開花する。昭和28年（1953）の日展出品作を文部省が買い上げ、昭和32年（1957）には戦後初の式年遷宮を迎えた伊勢神宮の社宝として作品が永久保存された。そして昭和35年（1960）、「みなそこ」が芸術院賞を受賞。かなの作品としては初めての快挙で、まさにかな書道が世の中認められた瞬間に

字は平安時代に優美の極地へと高められたが、安東は藤原行成の『和漢朗詠集』を手本に独立でかなを学んで古典への回帰を目指しただけでなく、机の上でもひとり味わう小字かなから、展覧会場で多くの人に鑑賞してもらう新たな壁面芸術としての大字かなと昇華させた。『みなそこ』はその代表作だ。その後安東の書は日本文化の象徴として、在外公館や大阪万博の貴賓室などを彩った。

神戸では安東の作品に出会いがでる。須磨離宮公園には自作の歌の碑が、県庁二号館には「第二神戸高等學校跡の石版がある。安東の作品を多く

正面玄関の額も安東の筆によるものだ。また、長田区の蓮池小学校の校歌の作詞も手がけている。ちなみに、作曲はこの連載の初回で紹介した田中銀之助だ。

安東聖空の作品は、人間のまごころから現れる汗と涙と祈りが、流れるような筆の二筆二筆にあらわれている。人ならぬ輝きにうたれたとき、心の花が咲き拌みたい気持ちになる。本当に豊かな、書の世界である。

A black and white portrait of Shunroku Higuchi, an elderly man with glasses, wearing a traditional Japanese robe (fukinuki yatai) over a white collar. He is standing outdoors with bamboo leaves visible in the background. He holds a sword (tachi) vertically behind his back with both hands.

写真／「安東聖空」神戸市立博物館
Photo : Kobe City Museum / DNPPartcom

安東 聖空(あんどう せいくう)

書家

明治26年、兵庫県生まれ。大正3年に姫路師範学校(現在の兵庫教育大学)を卒業後、大正11年に兵庫県立神戸第一高等女学校(現在の兵庫県立神戸高等学校)教諭となる。古筆かんなを独学で学び、雑誌「かんなうた」、「正筆」を創刊して書道の普及に尽力。各展で活躍し、書道界に大きな影響を与えた。日本書芸会副会長、日展參事、日展評議員、日展顧問などをつとめ、日本芸術院賞受賞、勲四等旭日小綬章、勲三等瑞宝章受章等を受賞。昭和55年文化功労者。

神戸には安東の作品に由来する
うつことができる。須磨離宮公園
には自作の歌の碑が、県庁一号館
には「第一神戸高等学校跡」
の石版がある。安東の作品を多く
所蔵する神戸市立博物館の

※敬称略
※神戸高校同窓誌「朋友」、「上郡町史」、兵庫
摩書房「現代書道教室 安東聖空」、神戸市立
立博物館ホームページ、須磨区ホームページ
などを参考にしました。